

「せたがや探究的な学び」の推進

子どもたちが自ら学ぶスタイルへの変換

世田谷区では、子どもたちが自ら課題をもち、主体的に学び、さまざまな課題を解決しようとする力を身につけるために、授業改善に取り組んでいます。

※詳細はこちら→



子ども自ら学ぶスタイルへ

幼児・児童・生徒が好奇心や探究心を喚起し、自ら「探究のプロセス」を回転させられるような学習活動を目指します。

プロセス1 自ら問いをもち、課題を設定する
課題を見だし、把握している

プロセス2 見通しをもち、既習事項や各教科の見方・考え方を働かせる
課題解決の方法を考えている

プロセス3 協働して学んでいる
多様な学びを共有し、一人ひとりが個性・能力を発揮する

プロセス4 学びを振り返り、次につなげている
働かせた見方・考え方や身につけた力を振り返り、新たな問いを見いだす

「せたがや探究的な学び」が目指すこと

- 子どもたちに、●学んだことが社会で役に立つことを実感させたい
- 人の役に立つことの楽しさを味わわせたい
- 将来の夢や目標に向けて、自己実現できる力を身につけさせたい

せたがや探究的な学びとは、**探究のプロセスと共感・協働**を2本柱にしています。

共感・協働を大切にしたい学び

「探究のプロセス」を発展させていくためには、幼児・児童・生徒が多様な他者を「共感」的に受け止め、尊重し合いながら「協働」して粘り強く、よりよい課題解決に向けて取り組める力の育成が欠かせません。世田谷区では、「協調性」、「自己肯定感」、「自制・自立」といった「非認知的能力」の育成を大切にしています。

幼児期と小・中学校における学びの連続性を発展的に捉え、他者や事物との関わりを広げさせて多様な体験を積み重ねる。

多様な他者や社会、自分の将来等とつながることで、自らが思い描く未来を実現できる人材を育成する「キャリア・未来デザイン教育」が展開される。

共感・協働した学びに関わるさまざまな非認知的能力を育成するためには、幼児期における頭も心も体も動かして対象と直接関わりながら総合的に学んでいく経験が重要である。また、非認知的能力は幼児期だけではなく学齢期やそれ以降大人になっても多様な経験等を積み重ねることで育まれる。

「教師主導型の授業から、子ども主体の探究的な授業へ」

～探究的学習の先駆け、大館市から学ぶ～

探究的学習の取組みを10年間続け、学力向上に取り組んでいる秋田県大館市へ、区内小・中学校教員を派遣し、「探究型授業」の多様な指導法や研究内容について学ぶ研修を実施しました。大館市では、「ふるさとを愛し、共感的・協働力を備え、自らの手で社会を変えていく人材育成」が実践されており、学習中、子どもの「なぜ?」「どうして?」「どうしたらいい?」から、次には「わかった」「できた」「こうしたい!」に変わる元気な声があふれていました。



大館市での派遣者の学び

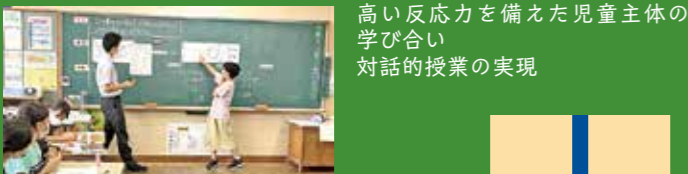
派遣者は、大館で学んだことを報告書にまとめ、どう具体化していくのか、それぞれが実践に励んでいます。その一部を紹介します。

おおだて型授業（響学）

「学び」の姿
【返事】【反応】【学習規律】
教師と子どもがともにつくり出す授業



「共感的協働力」を核とする学び合い活動



目的に応じて変化する「学び隊形」

オーケストラ型
黒板が見やすい、指示が通りやすい
ペア学習が効果的、集中が継続しやすい

コの字型
子ども同士が向き合う学び合いの隊形
グループで話し合い、クラス全体で学び合い

令和4年度 大館市教員派遣研修報告
世田谷区立尾山台小学校 島田紘芳

教材研究は「軸」と「意識」

「軸」：学習指導要領

- ①0（ゼロ）スタートではなく、これまでの学び（小学校段階も含む）や経験を踏まえる。
- ②「付けたい力」を明確にする。各教科の「見方・考え方」を生徒と共有する。



北陽中学校教職員全員が共有している「授業づくりのイメージ」
作：阿部先生

教科指導力向上のために、北陽中ではさまざまな取組みを行っています。「学美ツアー」では、教科の枠を超えて相互で授業参観をし、意見交換を行います。「指導案検討会」では、学習指導要領だけではなく、学校経営計画や教育目標等とも照らし合わせて、生徒の実態に合った授業となっているか議論します。

「意識」：一人も見捨てない

- ①生徒の実態から目標を設定する。
- ②授業後、単元後、卒業後など多様なゴールの姿を想像して授業づくりを行う。
- ③生徒の疑問から授業をスタートさせる。



視察校 大館市立北陽中学校

「北の大地を照らす太陽のような学校」を目指している北陽中は、先生方も生徒の皆さんも温かい家族のようでした。

令和4年度 大館市教員派遣研修報告
世田谷区立上祖師谷中学校 石川 寛樹

その他の派遣者の声

- 「探究する」とは「学び方を学ぶ」ことであり、学習課題を自力解決していくことを通して、困難な課題に挑戦する意欲や、社会で役に立つ力を培っていくことだと学んだ。
- 授業づくりだけでなく、学びの環境づくり、学びの習慣づくりも大切である。子どもが自ら主体性を育むことができるような環境をつくっていけるようにしたい。
- クラス丸となって授業に臨む姿勢や、一緒になって学ぼうとする気持ちを育むことの重要性を実感した。協働的に学ぶよさを子どもたちに実感させたい。